

5) 生活活動度

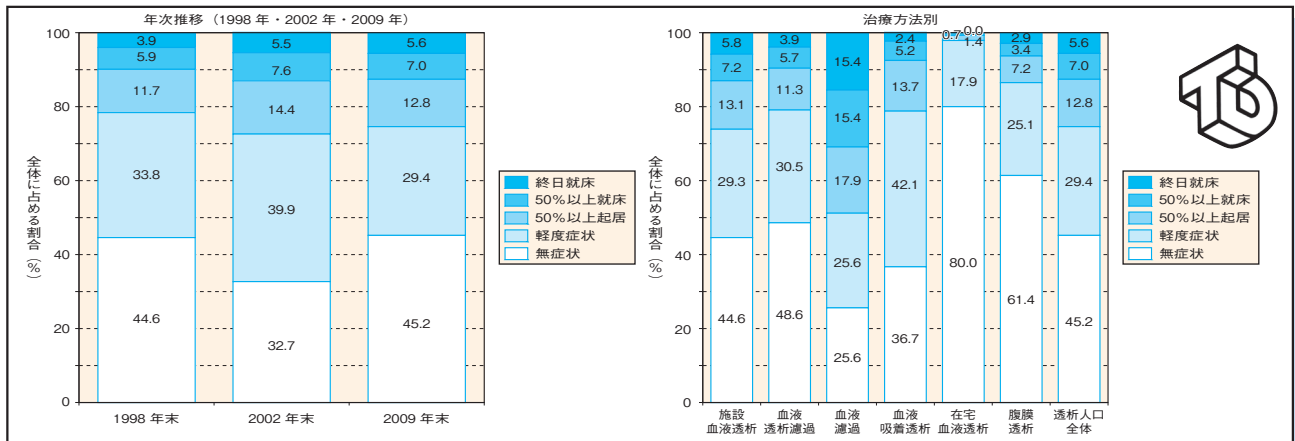
日常生活活動度 (activities of daily living, ADL) は過去の本調査において既に2度調査されている (1998年末“介護状況”, 2002年末“身体活動状況”) (文献1, 2)。

ここではこの集計結果についてその概要を示した。なお、今回の調査に用いられた選択肢文と図表内で用いた見出しを以下に示す。

日常生活活動度調査で用いた選択肢と図表内見出し一覧

調査で用いた選択肢	図表内見出し
A: 無症状で社会活動ができ、制限を受けることなく発病前と同等にふるまえる。	→ 無症状
B: 軽度の症状があり、肉体的労働は制限を受けるが、歩行、軽作業や座業はできる。 例えば軽い家事、事務など	→ 軽度症状
C: 歩行や身のまわりの事はできるが、時に少し介助のいることもある。 軽労働はできないが、日中の50%以上は起居している。	→ 50%以上起居
D: 身のまわりのある程度のことはできるが、しばしば介助が要り、 日中の50%以上は就床している。	→ 50%以上就床
E: 身のまわりのこともできず、常に介助がいり、終日就床を必要としている。	→ 終日就床
Z: 不明、分類不能	→ 不明

(1) 治療方法と日常生活活動度 (図表56)



日常生活活動度の推移 (各年透析人口全体)

調査年	無症状	軽度症状	50%以上起居	50%以上就床	終日就床	合計
1998末	59,171 (44.6)	44,855 (33.8)	15,510 (11.7)	7,806 (5.9)	5,205 (3.9)	132,547 (100.0)
2002末	55,141 (32.7)	67,325 (39.9)	24,311 (14.4)	12,762 (7.6)	9,325 (5.5)	168,864 (100.0)
2009末	101,629 (45.2)	66,084 (29.4)	28,889 (12.8)	15,632 (7.0)	12,638 (5.6)	224,872 (100.0)

生活活動度 治療方法別 (透析患者全体)

治療方法	無症状	軽度症状	50%以上起居	50%以上就床	終日就床	合計	不明	記載なし	総計
施設血液透析	90,742 (44.6)	59,768 (29.3)	26,703 (13.1)	14,565 (7.2)	11,897 (5.8)	203,675 (100.0)			
血液透析濾過	6,684 (48.6)	4,202 (30.5)	1,556 (11.3)	787 (5.7)	531 (3.9)	13,760 (100.0)	85	2,996	16,841
血液濾過	10 (25.6)	10 (25.6)	7 (17.9)	6 (15.4)	6 (15.4)	39 (100.0)	1	123	163
血液吸着透析	555 (36.7)	637 (42.1)	207 (13.7)	79 (5.2)	36 (2.4)	1,514 (100.0)	8	256	1,778
在宅血液透析	116 (80.0)	26 (17.9)	2 (1.4)	1 (0.7)	0	145 (100.0)	0	72	217
腹膜透析	3,522 (61.4)	1,441 (25.1)	414 (7.2)	194 (3.4)	168 (2.9)	5,739 (100.0)	154	3,178	9,071
合計	101,629 (45.2)	66,084 (29.4)	28,889 (12.8)	15,632 (7.0)	12,638 (5.6)	224,872 (100.0)	2,422	52,827	280,121

患者調査による集計

解説

1998年末 (文献1)、2002年末 (文献2)、そして2009年末の3年次についてADLの推移を示した。1998年末から2002年末にかけては“無症状”の患者が減り、ADLの低い患者が増大する傾向があった。しかし、今回明らかにされた2009年末の値では、2002年末よりも“無症状”の患者が増大し、ADLの低い患者がわずかではあるが減少していた。1998年から2009年にかけて透析人口の高齢化と糖尿病患者の増加は一貫しており、2002年から2009年にかけて認められた上記所見の背景は明らかではない。

一方、2009年末の治療方法別では、血液濾過を施行されている患者にADLの低い患者が多く認められた。一方、施設血液透析に比べて在宅血液透析、腹膜透析、そして血液透析濾過ではADLの低い患者が少ない傾向が認められた。特に在宅血液透析ではほぼ全ての患者が“無症状”あるいは“軽度症状”であった。

参考文献

- 1) わが国の慢性透析療法の現況 (1998年12月31日現在). 日本透析医学会. 名古屋, 1999.
- 2) わが国の慢性透析療法の現況 (2002年12月31日現在) CD-ROM. 日本透析医学会. 東京, 2003.